

# なくそう交通死亡事故・アンダー75 ～2020年へ向けて～

平成29年広島県交通安全キャッチフレーズ



第10次広島県交通安全計画では、同計画の最終年（平成32年）までには、交通事故死者数を75人以下にしようという数値目標を掲げています。

このことから、広島県交通対策協議会では、「なくそう交通死亡事故・アンダー75～2020年へ向けて～」をキャッチフレーズに、

**「高齢者の交通事故防止」「飲酒運転の根絶」「自転車の安全利用の推進」**を重点として、県民総ぐるみの取り組みを展開することとしています。

## 事業所は地域交通安全のステーション

### 事業所から交通安全の輪を家庭・地域へと広げよう


事業所の交通安全に果たす役割の重要性を認識し、上記重点に取り組みましょう。また、交通事故のほとんどは、ヒューマンエラーで発生しています。事故の3大要因は、

**「急ぎの心理」「思い込み」「漫然・脇見」**

となっていることから、「運転者に係る安全対策」に力を入れましょう。

#### 高齢者の交通事故防止

##### ▶他の世代に対する高齢者保護意識の醸成

高齢者保護意識を醸成する教育を行うとともに、「点ける」広島県ライト点灯運動」を周知徹底する。

##### ▶高齢者の家庭における交通安全意識の高揚

高齢ドライバーには、身体能力の低下による運転の弱点を理解させ、高齢歩行者には、薄暮時、夜間における反射材用品の着用を促す。



#### 自転車の安全利用の推進

##### ▶自転車交通ルールの周知徹底

「自転車は車両」を認識させ、車両運転者として交通ルールを守るという規範意識を高める。

##### ▶安全利用意識の向上

薄暮時や夜間におけるライト点灯、反射材用品の活用を図る。



#### 飲酒運転の根絶

##### ▶飲酒運転根絶に向けた教育

飲酒運転の危険性を理解させる。

##### ▶規範意識の確立と共有

「飲酒運転をしない、させない、許さない」規範意識の確立を図るとともに、家庭での共有を図る。



#### 運転行動に配慮した交通事故防止

##### ▶「ゆとり」を持った運転の励行

急ぎの心理が交通事故・違反を招くことを理解させ、時間と心にゆとりを持った運転を心がけさせる。

##### ▶「かもしれない」運転の励行

「だろう」という思い込みから、思いがけない事故が起きていることを理解させ、「かもしれない」への意識改革を図る。



##### ▶「緊張感」を持った運転の励行

交通事故は、「ぼんやり」などの漫然運転「スマートホンの操作」などの脇見運転によるものが多いことを理解させ、運転中には緊張感を保持するよう指導する。

